

**(1) 附属図書館****① 附属図書館****ア 設置の趣旨（目的）及び組織**

附属図書館は、教育及び研究活動に資するため、図書・雑誌・その他の資料を一元的に収集・整理・保存し、本学の学生及び職員の利用に供するとともに、学生の主体的・能動的な学びのための環境の整備と学修支援の実施を目的として設置されている。その管理運営は附属図書館長が行い、事務は学術情報課図書館チームが担当している。

**イ 運営・活動の状況**

令和3年度に実施した主な事項は以下のとおりである。令和3年度の入館者総数は76,489人、開館日数は348日であった。

**i) 基本学術研究図書・学習用図書の収集・保存**

シラバス掲載図書の網羅的収集を継続するとともに、学習用図書、参考図書、寄贈図書、学生リクエスト図書等の選書、受入れを行った。また、全教員に対し、基本学術研究図書、学習用図書等の推薦依頼を行い、選書・受入れを行った。さらに、附属図書館運営委員及び情報メディア教育支援センタースタッフの教員に学生用図書の選書を依頼し、受入れを行った。これらの収集により、令和3年度は4,100冊を受け入れた。

**ii) 学修支援の実施**

大学院学生協議会の要望を受けての新潟県教員採用試験前の土日4日間の開館時間2時間延長を引き続き実施した。

**iii) 図書館利用を促進する取組**

附属図書館運営委員及び情報メディア教育支援センタースタッフ、学生ワークスタッフによる選書を行い、130冊の図書を受入れ、展示・貸出を行った。

電子書籍の試読サービスを実施し、29タイトルを導入した。

**iv) 新潟県立看護大学図書館との相互協力**

例年同様、文献複写料金と貸出条件を学内者扱いとするとともに、10月～11月に蔵書交換会を実施し、相互に蔵書の展示・貸出を行った。

**ウ 優れた点及び今後の検討課題等****i) 図書館資料購入費**

資料購入費が逼迫する中で、第1回及び第3回の附属図書館運営委員会で図書館購入資料選定について検討を行い、2022年電子ジャーナル及び国内雑誌の購読内容を決定した。

**ii) 地域社会への貢献**

学外者の令和3年度貸出利用登録者総数は345人で、1,595冊が貸し出された。

**iii) 資料の配置、保存、収納**

資料の適切な配置変更を次年度も引き続き実施・調整する。

## ② 運営委員会

### ア 設置の趣旨（目的）及び組織

#### i) 組織設置の趣旨（目的）

附属図書館運営委員会は、附属図書館の運営に関する事項を審議するために置かれている。

#### ii) 組織の構成及び構成員等

附属図書館運営委員会は、附属図書館長、各学系から選出された教授又は准教授（講師及び助教を含む。）各1人、学術情報課長計7人により構成され、附属図書館長が委員長を務める。

### イ 運営・活動の状況

#### i) 委員会等の開催状況

令和3年度は、令和3年6月30日（水）、9月27日（月）～10月1日（金）（書面審議）、10月26日（火）、12月21日（火）～令和4年1月5日（水）（書面審議）及び、2月24日（木）の5回開催した。

#### ii) 審議された主な事項

- ・ 荒天時等における臨時閉館方針
- ・ 点字プリンター式の運用について
- ・ 2022年電子ジャーナルの契約
- ・ 附属図書館書棚の狭隘化問題対応
- ・ 国立大学法人上越教育大学附属図書館、公立大学法人新潟県立看護大学図書館及び上越市立図書館との三者連携協力に関する協定書について
- ・ 2022年度附属図書館経費

#### iii) 重点的に取組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

- ・ 附属図書館利用者の安全確保のため、荒天時等における臨時閉館について、判定基準、判定の時期、通知方法等の検討を行い、「荒天時等における臨時閉館方針」を策定し、運用を開始した。
- ・ 視覚障害者の学びを支援するために、点字プリンター式の試行運用を行い、利用目的、利用実態、料金体系等について検討を行い、令和4年4月1日（金）から本運用を開始することとした。
- ・ 附属図書館書棚の狭隘化問題について、プレハブ建設、館内の重複図書の除却、電子ブックの購入等について検討を行い、施設安全・環境委員会には、「附属図書館書棚の狭隘化問題対応のための要望書」を策定し、提出した。
- ・ 国立大学法人上越教育大学附属図書館、公立大学法人新潟県立看護大学図書館及び上越市立図書館との三者連携協力の実施に伴い、「国立大学法人上越教育大学附属図書館、公立大学法人新潟県立看護大学図書館及び上越市立図書館との三者連携協力に関する協定書」を策定し、運用を開始した。